



復刊第89号

題字吉岡弥生

年頭の辞

会長 三神美和

明けましておめでとございます。会員の皆様には、ご機嫌うるわしく新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。どうぞ今年もよい年であらるよう希っております。

皆様のご協力のおかげで、日本女医学会は、昨年は実りある記念すべき年でありました。世の中は、やれ核ミサイルをめぐる米ソの対立だ、中東勢の不安だなど、およそ平和とは程遠い感のある時、本会がこの一年平和に、安定した年であったことは本当にうれいことでありました。平和で、一致協力がなければ、事業は出来ないことを痛感させられた年でもありました。

一九七六年に行われた国際女医学会東京大会の記念事業として、この五年來、会所有の事務所を持つこと、若い研究者のための研究助成を行う

こと、国際的交流のためのフアンドの拡大など三本柱をとりきめ、これが実現に向けて努力して来ましたが、事務所については、委員会をつくり絶えず心配しておりましたが、いつも総会の度毎、適当な場所の得られなかったという言訳ばかりしておりました。しかし漸く一昨年、適当な場所と建物を手に入れることができました。着々実現に向けておりましたところ、昨年十月にすべての手続が完了して、住み慣れた牛込の至誠会館四階から、渋谷の青山宮野ビル三階に移転することが出来ました。事務室と会議室の二室があり、少し手狭の感はありますが、借物でない安心感と仕事のやり易さがあり、事務局も快適だと喜んでおります。事務所移転準備委員の方々、またこの建物について直接ご配慮下さいまし

た福永先生に厚くお礼申し上げます。研究助成につきましては、一昨年第一回の募集を全国の大学医学部、医科大学に要請しましたところ、三十二件の応募者があり、その中から特にすぐれた五件を選考して、昨年の総会で、第一回の授与がなされました。日本女医学会は社団法人として社会に貢献する使命がありますが、先ず女性の地位向上の一貫として、身近な女医の地位向上に目を向けて行かねばならないと存じます。昨年は国際婦人年中間年でありました。かかる時、若い女医に対する研究助成第一号が行われたことは大変に有意義であったと思います。五名の研究者の方々に見做って、すでに次回の研究助成者の推薦が大学から来ております。学術面での活躍は今後ますます進めるべき事項の一つだと思います。

国際交流のために以前から国際フアンドが設けられておりましたが、次第に資金も減ってまいりましたが、で、記念事業の一翼として、これを拡大し、国際関係に使用しようというところで、新たな国際フアンドを発売させました。日本女医学会が国際女医学会の一員として、重要な地位を占めてまいりましたし、また佐野先生が国際女医学会の副会長になられたこともあって、外国からの女医先生の訪日も多く、こうした状況から、ますます資金の必要性は高まってゆくとおもいます。

記念事業として掲げた三本柱は、

目次

年頭の辞	三神 美和	1
定時総会のお知らせ		2
支部展望 東京都		3
千代田だより	井上 柳子	3
港だより	斉藤 歌子	3
目黒だより	井原 匡子	4
西谷小枝先生おめでとう	二村芙美江	4
国際女医学会第十八回国際会議参加のご案内		5
理事会議事録(十月・十一月)		6
会員動静		7
編集後記		8

昨年すべてが発足し、目的を達し得たのであります。一九八一年は日本女医学会にとつて、記念すべき年であったと思えます。さらに昨年十一月十五日には、創立六十五周年記念式典が盛大に行われ、永続会員、役員に対する表彰など盛会裡に終了したことは、歴史に残る最大行事であったと思えます。日本女医史にもありますように、女医の歴史は古く、すでに大化の改新の法律書に記載されております。しかし本当の女医は、明治十八年漸く公許第一号として荻野吟子女史が獲得されました。近代女医史の道を開かれたのであります。

しかし再び女医への門戸が閉ざれんとした時、明治三十三年吉岡弥生先生が、女医学校を開設され、女医への道が再び開かれ、今日へと受け継がれたのであります。先人の苦心、苦闘を思うとき、安閑とはしておられない気持になります。低い地位におかれた女医、非力の女医が相より、相助けるために結集して出来た日本女医学会であつてみれば、この伝統をうけついで、女医の力を結集して、お互に助け合い、各自の生活を守るとともに、広い視野に立って、広く社会に貢献する心構えが肝要であると思えます。

昨年のも恵まれた年のあとをうけて本年もまたさらによい年でありますように希っております。

本年の行事として、役員改選と、第十八回国際女医会とがあります。

役員改選は総会で行われますので、五月に東京の京王プラザホテルで行われる総会にはぜひ多数ご出席下さい。仕事の上で次第に発展しつつある日本女医会を愛し、会の仕事にうち込んで下さるような方をぜひ選んで下さい。またそうした心意気のある方はどしどし立候補して下さい。役員会には必ず出席するという熱意のある方であって欲しいと思います。

国際女医会はマニラで行われます。外国といっても近い国でありますので、多数ご出席下さいまして、日本女医会の方のある所を見せていただきたいと思います。フィリピン女医会は、歓迎のため張りきつていておきいております。アジアの一員として、同じアジアに属するフィリピンを知ること決して無駄ではないと思います。

医師過剰時代を迎えるに当り、日本女医会の任務はますます重くなつてまいりと思ひます。同性医師のために今年も大いに頑張つて、日本女医会の力を示そうではありませんか。日本女医会の発展と会員の皆様のご健康とご多幸を祈念して、新年の挨拶と致します。

社団法人 日本女医会

第二十七回 定時総会のお知らせ

日時 昭和五十七年五月三十日(日) 午後一時
場所 京王プラザホテル

①一六〇 東京都新宿区西新宿二二二一
②〇三―三四四―〇一一 (代表)

なお、五月三十日午前十時より評議員会が同ホテルで行われます。

評議員ご欠席の場合は予備評議員(本部に届出のある方)がご出席下さい。

京王プラザホテルにお泊りの方は予約の際、日本女医会会員であることを申し出た場合は、宿泊料を割引いたすことになっております。

評議員及び予備評議員の改選について

昨年、定款施行規則が変更されましたので、昭和五十六年度総会(昭和五十七年五月三十日)において役員任期満了に伴う役員改選が行われます。

定款施行規則第二十六条により評議員は、役員改選の年の三月末日までに本部に必ず届出することになっております。

お手数をおかけいたしますが、各地区において評議員及び予備評議員(再任も可)を選出され本部に昭和五十七年三月末日までにお届け下さい。

再任の場合も一応本部にご通知いただきたく存じます。新評議員は、昭和五十七年四月から六十年三月までの任期となります。

謹 賀 新 年

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

川島富久子	川口 正子	大原 一枝	尾中 妙子	八木 貞子	守安 素女	丸山 芙実	松岡 宏子	野沢 良美	竹内 静香	佐藤千代子	久保田くら	小俣喜久子	稲葉 幸子	山崎 倫子	柳瀬 路子	福永ひろ子	三神 美和
事務局長	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員
一同	三重	百枝	信子	山本 杉	森川みどり	マッキンストリ千枝子	藤田 親代	藤井 儔子	平瀬 文子	蓮井 敏子	野呂 幸枝	野口登志子	鈴木 文子	清水 友代	佐野アヤ子	斉藤イサヲ	川那部喜美子

支部展望

千代田だより

千代田支部 井上 柳子

千代田区は天皇のお膝元として、皇居を中心に、外堀に囲まれて、日本の中核機関が集った特殊な地区で、ことにお堀と石垣、松に桜、柳とマロニエの並木や、名所史跡が多く、有名な小学、中学、大学の多い文教地区でもあります。私は靖国神社の近くに住み、小学生の頃は、大鳥居の下で、毬つき、縄とび等して遊びたい出が沢山あります。先ず、ここから、ご案内しましょう。田安門から半蔵門までの内堀は、千鳥ヶ淵といつて、桜の名所で、満開の桜と柳の新緑との調和は、すばらしく、東京一です。三宅坂から桜田門にかけての眺望は、実にはすがすがしく、堀の水面に映る松の美しさ、彼岸になると、石垣の上に、赤い、マンジュシャゲの花が一面に咲き、反対側の、正倉院に似せた校舎づくりの国立劇場と、ミカゲ石の重厚な石の城のような最高裁判所と、良い対称で、外国人も足を、とめて、ワンダフルです。

国会議事堂を仰ぎながら、桜田門をくぐると、有名な二重橋の前に出て、黒松の美しい皇居外苑が広がります。霞ヶ関、永田町地域は、政治経済の中心地、丸の内、大手町の高層ビル街は産業の中心地で、日比谷公園は、緑のオアシスで、01達の昼の憩いの場所になっています。私どもが卒業し、謝恩会をした昔の帝国ホテルの姿は無く、近代的な建物に変わり、威容を見せており、ただ昔を偲ぶにふさわしい東京駅だけは、貴重な、赤レンガ造りの建物として残っております。神保町からお茶の水にかけては、神田書店街として、学生街で毎年、開かれる古本祭りは、有名です。お茶の水駅から見える、聖橋の立体的な橋脚美は、絵になり、ロマンスを感じます。近くに、ニコライ堂、神田明神があり、神田の町火消が献納した明神男坂等、神田名物です。

さて靖国神社にもどり、明治二年六月に、招魂社として、大村益次郎が中心となって、建設され、国家を平和に統治するという意味で、明治十六年に靖国神社と改称されました。珍しい石獅子、大鳥居、慰霊の泉、大村益次郎の銅像、大きな古木の銀杏並木、桜の木の境内には、白鳩の大群が、飛びまわる情景は、まさに平和のシンボルです。本殿の前に進み、「核兵器廃絶」、「世界の平和」を心から祈りました。田安門を、くぐると、日本武道館があり、北の丸公園の池、芝生、花みづきの花、サツキの満開の頃は、本当に、すばらしく、東御苑と続いています。

赤坂見付の古風な弁慶橋、日枝神社のお正月の初輪くぐりは、大変な人気があります。日枝神社と神田明神の祭礼は天下の二大祭として有名です。

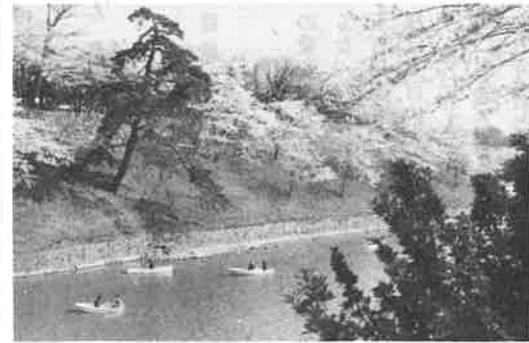
千代田支部の会員は、今年になって六名の退会の先生が出て、わずかに七名の淋しい会になりました。しかし、支部の龍知恵子先生を理事長とする脳性マヒ児を守る会が保健文化賞を受賞されたことは、大変に、自慢で、喜ばしいことで、紙面をお借りして心からお祝申し上げます。どうぞ、若い先生方が、沢山入会して下さいませよう、お待ちしております。

56・12・11

港区は、東京港に臨み、品川区、渋谷区、新宿区、千代田区、中央区に隣接し、旧都内の区としては、比較的広い面積の地域で、戦前の麻布、赤坂、芝が合併した区でございます。したがって、医師会も、三区医師会が統合され、会員数も四四七名（五六年三月）を数え、その内女医の数は約一割の四十余名でございます。

区内には、日本女医学会の長老、大橋リュフ先生が、新橋にご健在でいらつしやいます。また日本で初めての、女性学位取得者の宮川庚子先生が、青山で、耳鼻科をご開業です。吉岡弥生先生とご一緒に、女医の先覚者でいらした多川澄子先生のご息が、芝白金でご開業と、港区も中々女医史にゆかり深い所でございます。

私どもは、港区医師会員の女医を中心として、それに医師会員でない日本女医学会の方々にも加わっていただき、港区女医会を作っております。春秋二回の旅行、食歩き会等、会員の相互扶助と懇親の会で、お互に困ったことを相談したり、力になりあつたりして、楽しい会をつづけております。本年四月には、千鳥ヶ淵のフェアモントホテルで、夜桜の会を致



千鳥ヶ淵

港だより

港支部 斉藤 歌子

しました。三十名程集り、大変楽しい夜の一時を桜吹雪の中で過しました。秋の旅行は、皆様忙しく、他の旅行とも重なり、残念ながら本年だけは割愛して、加賀料理を賞味する会を十一月二十六日に致しました。来年は六月に上高地の旅行を計画しております。

次に港区の医療環境について記したいと思います。

医育機関としては、慈恵会医科大学、北里大学医学部があり、官公立病院としては、虎ノ門共済病院、愛育病院、済生会中央病院、専売公社東京病院、東京船員保険病院等があります。すぐ隣接地区には、日赤医療センター、慶応大学付属病院があり、新しくビルがたつと、その中で開業される会員が出来、すでに開業されている方も軒をつらね、港区全体の人口に対し、医療機関は、満杯の状態です。

ここ数カ月の間、専売病院の一般開放問題が、新聞紙上を賑わしておりますが、元来、専売病院は、職域病院であり、その一般開放は、地区医師会員にとり、医療経営基盤の圧迫でもあり、また医療圏営につな

る一環として、私ども医師会は、反対をつづけております。しかし地域住民の請願が出たりして、なかなか油断の出来ない大きな問題になって来ております。

現在私は、港区医師会の保険担当理事をいたして、この六月よりは、点数新改訂、老人法案の問題等等むずかしい問題が山積して、あわただしい日々を送りました。

物価上昇と人件費の高騰にもかかわらず、医療費はここ三年四カ月の間据えおかれ、やっと六月に点数改訂となりましたが、同時に薬価基準の大幅下げが行われました。改訂より三カ月たち、ようやく新点数にも慣れましたので、港区内の医療機関の十月分の診療報酬を、前年及び前々年の診療報酬と比較検討致しましたところ、毎年加わる自然増は零で、その上全体平均について約〇・九%のダウンでございました。

私どもをとりまく医療情勢は、日増しにきびしさを加え、医療の新らしい方向は、私には混沌としておりますが、新点数は医療分業の方向に進んでいるような気が致します。それには、しかし、もつともっと医師の技術料が認められるべきで、点数の再改訂が、切に望まれます。

医師会に対する世間の風あたりの強い今日この頃、明日の医療の方向を見失わないよう、流れに押し流されないよう、お互に私ども、しっかり団結してまいりたいと思います。

56・11・14

目黒だより

目黒支部 井原 匡子

目黒支部だよりについて書くようにとのお話ですが、私は開業三十年になりませんが、地理歴史については不得手ですので、詳しくは書けません。概略をお知らせいたします。目黒は東京都の城南地区に入り、大田、品川、渋谷、世田谷区に隣接してあります。地形的には起伏が多いため坂があります。国鉄目黒駅より権之助坂を抜けて目黒通りに出ます。ここは交通渋滞を起すので、ラジオ等で報道されます。目黒通りと、山手通りの交差するところに大鳥交差点があり、目黒は比較的環境の良いところですが、この交差点は、ちよつと窪地になっているために、排気ガスの溜り場になっていて、時間関係の人々が測定しているのが見受けられます。

また、江戸時代の名残りの旧蹟も沢山あり、その内の一つに徳川將軍との縁の目黒のさんまで有名な茶屋坂があります。その近くに、目黒不動尊があり、毎月二十八日は境内に縁日の露店が並び大変な賑いです。この境内には甘藷先生といわれた青木昆陽の墓があり、その近くには、明治時代に度々首相になった桂太郎

の愛妾で有名なお鯉さんが、桂が亡くなった後仏門に入り住職となった五百羅漢寺があります。この羅漢様は五百の夫々異ったお顔の像があり、尋ねる人々のお知り合いに似たお顔に出会うそうです。その他、大きなお寺としては、駒沢通りに面して祐天寺があります。境内は広く、仁王門が区の文化財として指定されてあります。墓地に入ると左側に、大正天皇のご生母でいらつしやられる柳原二位局のお墓があります。文化財といえども一つ円融寺の五重石塔があります。円融寺は碑文谷一丁目にあり、この塔は、一般には笠石と軸石が一体となっており、対して、この塔は別個になっており、軸石が重いために全体が雄大に見えるのが特色です。

目黒には公園があまりありませんが一番古いものとして碑文谷公園があります。碑文谷池を中心として動物園や植物園があり、休日にはボート遊びを楽しむ人々の姿が見られます。最近出来た区民の憩いの場所として可愛らしい名前の「すずめのお宿」があります。七千平方メートルの屋敷跡に作られた緑地公園です。園内

には散歩道が出来ており、竹や椎の木、樺の原木がそのままに残り、木の幹には巣箱が懸けられてあります。新聞等で報道されたことがあります。角田せんさんというおばあさんが住んでおりました。おばあさんは、常々地所はお国にお返しするものといっており、そのためか、人に売ったり、貸したりしなかったそうです。一人で亡くなるまで、小さなプレハブに住んでおられました。土地の所有者がなくなり、その後相続の権利があると名のり出た人があり

ましたが、適任者がなくとうとう国に移籍され、それを目黒区で国から払い下げを求めました。ようやく無償で借りることになりました。ここが区内で唯一の武蔵野の面影を残すところでしょう。

日本女医学会会員数は四十余名ですが、会の目的の「和」をモットーとして歩んで行きたいと思っております。

日本女医学会の発展をお祈り致します。

西谷小枝先生おめでとう

港支部 二村 芙美江



西谷小枝先生

先生は頑固者です。静かなる頑固者です。医学生時代、スキー部キャプテンをなさつていて、外傷がもとでカリエスになり、階段教室での授業もやつとという苦しい生活の中で卒業。カリエスには田舎の方がよいと故郷岡山の山間での開業。これが昭和十二年。それから二十四年間、体もだんだん恢復して来てご主人について上京になったのが昭和三十六年、化膿した鼓膜を人工的に蓋して鼓膜穿孔を癒す仕事にとり掛つたのが昭和四十三年。この仕事を引つ

さげて母校関西医大の門を叩いたのが昭和四十八年。それからご存知の新幹線通いが始まるのです。昭和五十六年秋医学博士号を頂戴するまで静かなる頑固者は、ひたすら化膿した鼓膜の孔ふさぎに専念されたのです。

私も戦中派ですから頑固では引けをとらない方なのですが、近頃今の若い人はあきらめが良過ぎて、物わかりがよくて、簡単に自殺する「すまし汁」みたいだと思ったりしているのですが、小枝先生の仕事に対する態度は「かす汁」だなあと感じます。スープならポタージュ、料理なら中華。外見より味つた方が「量」があるからです。粘り強い点、先生にはかなわない。

五、六年も前でしょうか、私は遊び、先生は論文の整理のため、新幹線内でお話したこと覚えていらっしやいますか。青白いお顔で静かに力強く話すその内容が、ひとたび「耳」の話になると、水の流れるような勢いで止まる所なく、時に楽しそうに、時に苦しうに、そのご年齢を考える時、私は胸が痛みました。一日も早く論文の完成することを祈りました。

でも、ずいぶん長かったですね。若い頃に先輩に手とり足とりで教わりながら作って行く仕事ならいざ知らず、臨床の業績として完成され、年月も充分かけ、データも沢山持っている仕事に対して、どうしてこんなに時間をかけなくては博士号が

下りないのでしょいか。これは私個人の見えですから、お聞き流しいただいて結構ですが、医学畑が特に閉鎖的のように思われます。臨床医が臨床で論文書いても駄目で、理学部の仕事ならすんなり行くなんてことやっていたら、医学の論文に「治療」が姿を消してしまうのではないかと案じられます。その意味でも、純治療的業績で、しかも臨床家が博士号を取って下さったことを、心からお喜び申します。

「変性」「自然防禦機構」人体はすばらしい生きる力を持っている。そこに着目された小枝先生のお仕事。これからも鼓膜穿孔による難聴者が一人でも多く救われますよう。一月十六日は、先生の恩恵を受けた患者さんが集ってお祝いの会があると聞きました。いつまでもお元気で臨床に精を出して下さい。

この度はおめでとうございました。

「鼓膜の穴を手術なしでふさぐ法を考案された、六十九才の女医さんに博士号を」と新聞紙上に報道され、また関西医大開学以来の最高学位取得者とのことにて、同支部後輩の二村先生よりご紹介をいただきました。

初志貫徹された西谷先生のご努力と栄光に、心からお祝い申し上げます。次号にも会員諸先生からのご投稿、ご紹介をお待ちしております。

広報部

国際女医学会第十八回国際会議参加のご案内

すでに、ご承知のとおり、国際女医学会第十八回国際会議は、今年十一月二十二日から二十七日までフィリピンのマニラで開催されます。

参加旅行のお世話をしていたくのは、前回同様、日本交通公社と阪急交通社です。

二社より左記のコースを作成していただきました。

詳細については、別紙お手もとのパンフレットをご検討の上、なるべく早く旅行社名、コース別を直接旅行社へお申し込み下さい。

同時通訳費用については別途となります。

日本交通公社

国内・海外団体旅行日本橋支店

担当者 外川グループ〇三一二七四一六八一七

〇中国・桂林コース

期間 昭和五十七年十一月二十一日(日)～十二月一日

(※)十一日間

経費 三十六万一千円

旅程 東京(成田発)→マニラ(六泊)国際女医学会

参加→香港→広州(一泊)→桂林(二泊)→廣州(一泊)→香港→成田

〇タイ・シンガポールコース

期間 昭和五十七年十一月二十一日(日)～十二月一日

(※)十一日間
経費 四十万八千円
旅程 東京(成田発)→マニラ(六泊)国際女医学会
参加→シンガポール(二泊)→バンコク(二泊)→成田

阪急交通社

内幸町営業所

担当者 中村グループ〇三一五〇一―五九一三

〇パリ島・シンガポールコース

期間 昭和五十七年十一月二十一日(日)～十二月一日

日(※) 十一日間

経費 四十二万円

旅程 東京(成田発)→マニラ(六泊)国際女医学会

参加→シンガポール(一泊)→パリ島→デン

バサル(二泊)→(機中泊)成田

〇シドニー・ニュージーランド一周コース

期間 昭和五十七年十一月二十一日(日)～十二月三日

日(※) 十三日間

経費 八十万三千円

旅程 東京(成田発)→マニラ(六泊)国際女医学会

参加→シドニー(一泊)→クライストチャー

チ(二泊)→ロトルア(一泊)→オークランド

(一泊)→成田

理事会議事録

日時 昭和五十六年十月二十四日
場所 青山宮野ビル三階会議室
出席(敬称略)
三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、守安、八木、尾中、川島、齊藤、佐野、鈴木、野口、蓮井、藤田、森川、山本、今野、添田、欠席(敬称略)

会計報告 佐藤常任理事
九月分別紙どおり
・会費長期滞納者八十六名より二百六十五万六千八百円の入金あり
・事務所購入関係の支払い
物件 四千五百六十八万円
登記料 二十七万三千九百六十円
会議室カーペット 二十一万九千五百五十円
合計 四千六百七十七万三千百十円 承認

庶務報告 松岡常任理事
9月26日 常任理事会、理事会を行
10月13日 三和建物へ事務所購入のため残金及び登記料を支払う
10月15日 事務所を移転する
10月19日 国際婦人年連絡会に柳瀬副会長出席する
その他
・故山田淑子先生、故藤田小冬先生ご遺族より香典の礼状あり

・西尾範子先生ご遺族より二万円
の寄付あり
連絡事項
一、日本経済新聞社より「一九八一年健康と医療展」の案内あり
二、労働省婦人少年局より昭和五十六年度婦人労働旬間の実施に對する協力依頼あり
三、大学婦人協会より全国セミナー開催のお知らせあり
四、国立婦人教育会館より

(1)昭和五十六年度婦人教育国際交流事業国際セミナー開催について
(2)昭和五十六年度婦人教育国際交流会集について
(3)昭和五十六年度婦人教育国際交流会集の案内 広報部
(4)国際障害者年日本推進協議会より十一月二十八日、二十九日国民会議開催の連絡あり
(5)十月分家賃及び管理費支払いについて
(6)事務所移転通知を関係者に発送す
(7)昭和三十一年入会者で二十五年度永年会員に表彰通知を発送す

会長挨拶 三神美和
日本女医会の歴史及び現在の活動状況 久保田くら
祝電披露
表彰式
二十五年永年会員表彰
役員連続十年以上の表彰
閉会の辞 福永ひろ子
来賓に招待状を発送する
表彰者の出席を見てから代表者を決定する
表彰状の記載等は小田急デパートに依頼
式典当日、事務所は九時過ぎから十二時まで見学出来るようにする
当日の役割分担
会費受取り受付 事務職員
会場の案内 広報部
表彰状、記念品渡し 庶務部
来賓接待、祝賀会 渉外部
来賓控室を七階のグイヤモンドの間に変更
バザー 事業部 学術部(小俣先生のごく)

定款一部変更の件
提案説明 福永ひろ子
閉会の辞 松岡宏子
講演会 司会 小俣喜久子
演題
内分泌学二十年のあゆみ
脳の性分化を中心として
(3)式典 司会 松岡宏子
福永ひろ子
開会の辞

バザーについて
バザー整理券一枚二〇〇円
購入依頼
二、職員就業規則について
三、その他
(1)荻野吟子に関する書簡について
日本女医会誌に山口敬一氏より荻野吟子についての日本女医史の記録に異議があるとの申し入れのあった向きを掲載し、山口氏にも連絡する
(2)「国際障害者年」チャリティコンサート協力願ひあり、会としては協力しない
(3)世界身体障害者芸術家協会より絵はがき購入の依頼あり二千円寄付する
(4)国際障害者年日本推進協議会より十一月二十八日、二十九日国民会議開催の連絡あり
(5)十月分家賃及び管理費支払いについて
(6)事務所及び会議室の登記済権利証十月二十四日出来る
(7)会議室及び事務所カーテン取り付け手配、耐火金庫は重量の関係で耐火キャビネット購入に変更する
(8)前進座劇場建設募金に應ずる
その額五万円
以上 久保田くら
松岡 宏子

祝賀会費用について
一人六千円位いの予算

祝賀会 司会 竹内静香
会長挨拶 柳瀬路子
三神美和
祝辞 龍知恵子
祝杯 龍知恵子
祝宴 龍知恵子
余興 前進座
閉会の辞 柳瀬路子

祝賀会費用について
一人六千円位いの予算

常任理事会議事録

日時 昭和五十六年十一月二十八日
場所 青山宮野ビル三階会議室
出席(敬称略)
三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木
欠席 なし

庶務報告 松岡常任理事
10月24日 常任理事会、理事会を行
10月26日 臨時総会、バザーご案内、事務所移転案内を会員に発送す
10月27日 台風二十四号集中豪雨の見舞状を埼玉、茨城、千葉、江戸川、新宿の各支部へ発送す
10月28日 全国医科大学医学部へ第2回学術研究助成の案内をす
10月29日 事務所移転通知を関係者に発送す
11月2日 昭和三十一年入会者で二十五年度永年会員に表彰通知を発送す
11月12日 日本女医会誌、年金パンフレット、ルーペンダンパンフレット、会費請求書、振込用紙を会員に発送す
11月15日 臨時総会、創立六十五周年記念式典を東急文化会館にて行
11月26日 タウンシップ青山宮野ビル管理組合設立す
その他事項

事務所移転案内を会員に発送す

事務所移転案内を会員に発送す

会員動静

入会会員(敬称略)

北支部 鈴木貴子
練馬支部 天野恵子
都下支部 泉二登志子
神奈川支部 樋口晶子
岡山支部 赤木瑩子
新卒入会会員(敬称略)
埼玉支部 植木伊津美
足立支部 市原直美
新宿支部 西郷真由美
鹿兒島支部 飯田富美子

退会会員(敬称略)

青森支部 岩田みわ
秋田支部 鈴木美千子
宮城支部 大井裕子
茨城支部 八文字玲子
品川支部 山田敏子
世田谷支部 川井成子
台東支部 国保綾子
千代田支部 竹村幸子
都下支部 楠 富美恵

会計報告

十月分別紙とあり 以上 久保田くら
松岡 宏子
(1)故恵木民子先生ご遺族より香典の礼状あり
(2)茨城支部より台風二十四号集中豪雨見舞状に対し被害なしの連絡あり
(3)世界身体障害芸術家協会より寄付の礼状あり
(4)前進座劇場建設募金協力の礼状あり
(5)エイボン女性文化センターより審査結果の報告あり
守安常任理事

神奈川支部 高橋けい
静岡支部 金田ふみ 川北佐紀子
奈良支部 小川ハツエ
大阪二支部 福池昌子
兵庫支部 杉原せつ子
岡山支部 脇 節子
自然退会会員(敬称略)
北海道支部 生駒田鶴子 岩瀬美恵子 尾谷静子 栗林博子 安達節子 齋藤明子 齊藤啓子 齋藤陽子 桜庭しげ下川芳子 富田桂子 陳内鶴江 中根敏得 福田よき 岡崎昭子 千葉千枝 松尾政子 山崎美喜子 吉尾喜美子 吉田征子 吉田直子 齊藤アキ 菅原正子 引地富佐子 秋田支部 山形支部 金子郁子 牧野ツヤ 矢尾板孝子 岩手支部 宮川ユウ 宮城支部 大越博子 清水洋子 高橋つねみ 玉井ハル 田野みよ 橋本くに 松浦みわ子 矢尾板範子 上田けい子 小島宮子 石川徳子 大野和子 福島支部 黒河内英子 佐藤萩恵 柄沢良子 兼谷 啓 福馬支部 柳沼千代子 松浦明子 阿部喜代子 阿部由紀 新井京子 関田芳枝 袖野壮乃 田中瑞江 中沢於君 馬場あい子 藤田万里子 星野千賀子 小沢綾子 桜井明美

埼玉支部 会川真理子 北浜清恵
上野久美子 木戸俊子
国松ふみ 小林尚子
小林洋子 鳴津悦子
柴田 薫 新藤節子
田尾新子 田島節子
辻 冬青 根本一枝
関 靖子 林 輝美
丸木みどり 藤野礼子
吉岡悠子 池田恭子
加藤俊子 石塚たけ
阿部トシ 菊池洋子
岩倉紀子 田中幸子 坂本和子
玉野敬子 柳沢仍子
村山知子 宮下光子
加藤佑子 川井香寿子
秋葉敏子 柴田佳世
杉浦静枝 高橋和江
鈴木笑子 羽田溢子
有益直子 伊藤みよ
窪田叔子 地引昌子
杉山トミ子 久松はる
田島喜美子 宮内米子
渡辺澄江 横内道子
鈴木志賀子 広江ひろみ
小林英子 和田恵美子
山本美佐 箭内祥子
阿部八重子 花岡妙子
板橋支部 村山直子
荒川支部 小本美佐 和田恵美子
足立支部 鈴木志賀子 廣内道子
足立支部 鈴木志賀子 廣内道子
葛飾支部 有馬てる 向野 梅

北支部 赤松順子 飯岡 恵
鬼川廣子 坂井千鶴子
三好美春 調所水浜
肥留間千津子
江東支部 長田智香 大宮司康子
品川支部 西村 素 西車田真理
秋山伸恵 見須 華
小高寿代
渋谷支部 大田由己子 小栗知子
大沢美穂子 久保信子
佐藤美知子 中村恵子
藤井敏子 長柄光子
木下公子
新宿支部 葵 恵美 赤上典子
浦本恭子 小川信子
扇内美恵 荻原洋子
川島弘子 川村恵子
茂野 淑 重本幸子
城下ひろ子 鈴木利子
高林和佳子 谷口晶子
藤田裕美 成松明子
林美代子 平岩敦子
原 由美子 三田初子
堀内佳代子 善積恵子
井上幸子 宗司西美
中村香菜江 阿部明子
新井裕子 丸本百合子
今村紘子 鈴木まき&
榎原ヤス子 泰 隆枝
細川美智子 今川信子
植田和子 篠崎百合子
小林典子
杉並支部 会田美千子 天谷敏子
石原彩子 大熊良恵
中島幸子 菅原ふさ
福島雅子 古沢サチ
山崎公恵 森本照子
山中みよ子
墨田支部 三浦康子
世田谷支部 安藤喜佐子 石氏澄子 五十嵐千代子 大平幸子 小山悦子

川生つや乃 小林い
く子 佐々木祥子
佐藤フミ子 中村恵
美子 舟波みさ子
南波藍子 高橋朝野
深沢純子 松本キヨ
武藤順子 村山恵子
与五沢桂子 平尾弓
渡辺和子 渡辺弘美
小泉澄子 千葉紀子
中山博子 半田幸子
松下フユ
台東支部 岡本玉江 添田早智子
中央支部 北井暁子 羽生通恵
千代田支部 池松静香 阿部真知子 山縣小伊志
宮崎 信
豊島支部 相沢阿喜 小栗備恵
土屋治江 長尾多美子
西條 道
中野支部 荒牧昌子 赤垣美代子
菊池清子 倉富孝子
高木真理 実川久美子
杉森美代子 日吉正子
藤本都野 矢島ふみ子
室 英子 山田京子
大角恵子 大角博子
楠本敬子 妹尾弥生
中沢朗子 李 慶英
石原順子 大里育子
大久保松代 花見千幸
花見千成 花見晴子
小浜智子 多田武江
森田百合子 森田真子
遠藤桃子 大井真知子
芝原志津尾 田中恵美
鈴木千秋 田辺和子
間壁さよ子 白 秀郷
岡田 操 後藤友子
篠原多恵子 竹田佳子
藤井とし 横山美保子

- 山梨支部 千葉ヨリエ
- 静岡支部 有原香保留 外山裕子
- 北村紀代子 中島 静
- 中野博子 伊達ふみ
- 山岸 作
- 喜納雅子 高橋文子
- 佐藤和子 和田順子
- 竹居真知子 田畑静江
- 原 美智子 藤多恒子
- 作田優子 坪内直子
- 石上宮子 重田帝子
- 日下部きよ子 山口知子
- 田辺智子
- 新橋紀子 市川まり子
- 公文真理子 松原義江
- 竹中れい子 伊藤照子
- 砂川佐知子 今井英子
- 鈴木昌代 亀田叔子
- 若林久子 大島喜美
- 小島桂子 南光弘子
- 後藤登美子 畑山道子
- 吉田保恵
- 神奈川支部 石垣あや子 梅原富子
- 三子 岡沢美江子
- 石川承子 葛西庸子
- 香川和子 岸川敏子
- 小川アサミ 住岡ツルエ 斎藤久美子
- 佐藤敏子 佐藤芳子
- 瀬底里美 四津道子
- 篠原恵美 渋谷房子
- 鈴木幸子 田場久代
- 田中千鶴子 徳植よう子 原田かつら
- 北条由美 増田聡子
- 本田まり子 松浦由美子 米沢美枝子
- 宮内直子 村山浜江
- 湯田順子 李 愛珠
- 若月雅子 梅村恵子
- 政川明子 吉田瑞季
- 山梨支部 千葉ヨリエ
- 静岡支部 有原香保留 外山裕子
- 北村紀代子 中島 静
- 中野博子 伊達ふみ
- 愛知支部 大橋陽子 河瀬章子
- 黒川あい子 篠原元子
- 塩野谷能子 杉浦芳枝
- 鈴木千鶴子 内藤 仁
- 松尾郁子 鈴木美英代
- 竹村久仁子 中村恵子
- 藤原多賀子
- 長野支部 中島まき 平林光子
- 岐阜支部 恩田喜代 山内光三子
- 吉田光子 渡辺 香
- 新潟支部 大関豊子 坂井イツ
- 富山支部 佐藤登美子 斎藤雅子
- 桜井楓子 飛見壽子
- 平井美枝 若尾満枝
- 石川支部 石野千津子 大和百代
- 大谷ユウ子 水間澄子
- 福井支部 後藤和子 紫田 董
- 三重支部 藤井 稔 丸山まつ子
- 滋賀支部 桂田幾代 竹内常子
- 山元真理子
- 奈良支部 中島京子
- 大阪一支部 住谷弥生 安岡百合
- 大阪二支部 香
- 大阪三支部 浅井マチ 石本スミ
- 神島照子 莉田昭子
- 麻生五月 坪井初音
- 土居 芳 水田律子
- 中島フサ子
- 大阪四支部 柴台キミ子 二木汀
- 宮本恒子 山下節子
- 大阪五支部 前田澄子
- 久保温子 高垣泰子
- 高田麗子 松家雪枝
- 高橋富貴子
- 中野好子
- 大阪七支部 上田佳代子
- 大阪八支部 沢田真佐子
- 玉林歌子 南条節子
- 吉田登志 池加美克
- 大阪九支部 枝
- 石田房野 楮村泰子
- 笠原千重子 広瀬斎
- 大阪十支部
- 京都支部 近藤悦子 前田花子
- 松田英美子 藤田百合子 吉江由美子
- 相模昭子 笹川万里子
- 佐藤幸子 沢田洋子
- 仁科博子 野口貞子
- 林 章子 藤岡芳子
- 石谷圭子 薄木代子
- 小田部とし子 真下晶
- 河村富子 岸原幸子
- 久住加代 近藤千鶴
- 近藤万里 清水孝子
- 弓削恵美子 高岡和子
- 高橋静恵 名村久子
- 西田君子 島山エヒ子
- 福田敦子 メリーパレ
- 和歌山支部 イエ
- 石井愛子 木下国子
- 下野敦子 玉井定子
- 辻田雪江 柳沢才子
- 岡山支部 原田美弥子
- 大田恵子 椎野万里子
- 世良タツコ
- 柿丸美蓉子 竹内芳子
- 梅原美枝子 田中治子
- 平山喜久子 森 洋子
- 諸井堯子 林 佳子
- 萩田冬子 鷺岡カネ子
- 松本美代子 橋本一栄
- 唐土千重 山地佐知子
- 田中澄子 野村歌子
- 依光真理子
- 徳島支部 浦田絹栄 松村香代子
- 北原サオリ 渋谷あき
- 高尾 茜 野見山和子
- 正田則子 正田照子
- 久富サフェ 山名敏子
- 横山通子 岩井由美子
- 矢ヶ部鈴子
- 木寺 淑 小島みのり
- 長崎支部 松尾 翠
- 兵庫支部 兵庫支部
- 京都支部
- 熊本支部 小野光子 川原ユキエ
- 中村紀子 松田艶子
- 宮崎 方 飯星紀久子
- 宮崎支部 松岡貞恵
- 鹿児島支部 石踊八十世 徳田り
- ツ子 貞方洋子
- 岡元 節 山元ヒデ
- 田口 桜
- 沖繩支部 大浜道子 蕪木多津を

熊本支部 小野光子 川原ユキエ
 中村紀子 松田艶子
 宮崎 方 飯星紀久子
 宮崎支部 松岡貞恵
 鹿児島支部 石踊八十世 徳田り
 ツ子 貞方洋子
 岡元 節 山元ヒデ
 田口 桜
 沖繩支部 大浜道子 蕪木多津を

愛知支部 藤中マチヨ
 大阪六支部 恵木民子
 京都支部 親康 庸

編集後記

明けましておめでとございます。
 昭和五十七年の年頭に当り会員諸先生方の限らないご活躍とご健勝をお祈り申し上げますとともに日本女医学会のますますのご発展を祈念してやみません。
 会誌も無事八十九号をおとどけ出来たことは大変うれしく、ご多忙中、玉稿を賜りました諸先生方のお陰と深謝申し上げます。
 八十七号より続いております「東京地方」の支部だよりも、東京に住しながらも、なかなか訪れることのできない種々の由緒ある名所旧蹟

などを楽しみにしていただいております由、また各支部の先生方のご活躍の様子など交誼の場としても、ご自由なご寄稿をぜひお待ちしております。国際女医学会第十八回国際会議につきお問い合わせなどあり、二旅行社よりのコースをご紹介致しました。多数のご参加お待ちしております。

さて、ご存じのように昨年は日本女医会にとり記念すべき年でございました。新事務所移転に引きつづき創立六十五周年記念式典、永年会員、役員表彰、国際障害者年を記念してのバザーなど大活躍の様子などは記念特集号としてただ今準備中でございますが多数の会員の先生方よりお喜びの声を寄せ頂いており、必ずや楽しいものになること一同張り切っております。今後も、どしどしご意見、ご叱言を頂き、なお一層努力してまいります。
 最後に昭和五十七年がすばらしい年でありませう、心よりお祈り致します。

(広報部 野沢)

昭和五十七年一月二十日 印刷
 昭和五十七年一月二十五日 発行
 編集人 野 沢 良 美
 発行人 日 本 女 医 会
 発行所 東京都渋谷区渋谷二丁目八十七番 青山宮野ビル
 日 本 女 医 会
 TEL (495) 〇五七一
 東京都文京区本駒込 一七七一
 印刷所 株式会社 北 斗 社